

熟練看護師によるターミナルケアの実際 —KJ法による問題点と解決方法の検討—

キーワード：ターミナルケア、KJ法、熟練看護師

○矢代亜希子¹⁾、柳佐和子¹⁾、古川原倫子¹⁾、清水理恵²⁾、倉井佳子²⁾、金子史代²⁾、鈴木宏²⁾
新潟県済生会三条病院¹⁾ 新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科²⁾

I 目的

看護師によるターミナルケアは患者と家族へのケアの質が重要となるが、現実のターミナルケアは看護師個人の力量に任されることが多くその実際が不明確なままである。A病院にはターミナル期を自宅近くで過ごしたいと願う患者が入院している。院内では看護部主催の看護を語る会を定期的に開催しており、そこではターミナルケアに戸惑いを感じている看護師の経験が多く語られている。その中で熟練看護師の語りからは、ターミナルケアに戸惑いを感じながらも患者に寄りそう看護をして看護師の役割を見出そうとしていることが分かった。そして、その熟練看護師の戸惑いは、ターミナルケアを実践していく過程での問題であり、熟練看護師はその問題の解決方法を模索しつつターミナルケアを実践していると考えた。そこで今回の調査では、熟練看護師個々の経験を実践知としてターミナルケアの質の向上を図っていくために、KJ法を用いて熟練看護師によるターミナルケアの実際からその問題点と解決方法を明らかにし検討することを目的とした。

II 研究方法

1) 調査期間：平成24年3月 2) 対象者：A病院の看護を語る会でターミナルケアの経験を発表した熟練看護師（経験年数13～24年）7名 3) 方法：熟練看護師7名に1つの会場に集まってもらい「ターミナルケアの問題点」を用紙1枚（10×6.5cm）に1つの考えをメッセージとして伝えられる長さで書いてもらった。熟練看護師に1人10枚を依頼した。7名から集まった用紙を並べ、KJ法に従い意味内容が似ているものを2枚から3枚にまとめ「見出し」をつけ、さらに「見出し」の関係をみてその内容が似ているものをまとめた（クラスター化）。そして、それぞれの関係を矢印で示し、相互の関係性を総括した。なお信憑性を高めるためにKJ法に熟練したファシリテーターの指導を受け4回のクラスター化を行った。4) 倫理的配慮：本研究は、A病院看護部の承認を得て行った。対象者に研究目的を説明し、個人の匿名性を守りデータは研究以外に使用しないこと、プライバシーの厳守、対象者に不利益をもたらさないことなどを伝え同意を得た。研究結果は学会等に発表することを伝え承諾を得た。

III 結果

熟練看護師からの総数60枚の記述内容の関係性から、ターミナルケアの実際は7つにクラスター化された。

熟練看護師はターミナルケアにおける看護師の姿勢を【患者の多様性を重視する】とし、【人間として関わる力が求められている】と述べていた。しかし、現状の問題点として【患者の思いが尊重されない】【在宅での看取りがかなわない】、そして【疼痛コントロールの問題点がある】を挙げており、その解決法として【看護師と医師の話し合いの必要性】を提示していた。熟練看護師のターミナルケアは、最終的には患者と家族の苦痛を最小限にし、限られた時間を価値あるものにして質の良い時間を過ごしてもらうために【患者のQOLを大切にする】という点にその考えを集約していた。そして、看護師に求められる【人間として関わる力】については、「ターミナル期であっても笑ったりユーモアを言い合えるような関係を作っていきたい」「時には看護師としてではなく、あなたと私の立場で話を聞いたり側にいて患者と家族の想いを聞く」「患者と一緒に何気ない話をしていつも通りに過ごす」「ターミナル期の患者であっても、一人の人間と思って自分も人間としてかまわずに接する」ことでターミナル期の患者・家族と分かり合える関係になれると思うと述べていた。

IV 考察

熟練看護師によるターミナルケアへの看護師の姿勢としての【患者の多様性を重視する】【人間として関わる力が求められている】からも看護師によるターミナルケアでは、個としての患者を尊重し同時に看護師としての自分をも大切にし、互いの人間性をもちいて【患者のQOLを大切にする】ためにケアの質の向上を図ろうとしていることが推察された。しかし、現状の問題点の【患者の思いが尊重されない】【在宅での看取りがかなわない】【疼痛コントロールの問題点がある】の解決策を【看護師と医師の話し合いの必要性】に求めている。その背景には、看護師と医師とが情報交換しつつ、患者の全人的苦痛を理解し、ターミナルケアの考え方について共通認識し協同して患者と家族へのケアに取り組むことの必要性が示されているといえる。

V 結論

ターミナルケアにおいて熟練看護師は患者の思いが尊重されない等を問題としており、解決法として個としての患者を尊重し看護師としての自分も大切にし互いの人間性をもちいてケアの質の向上を図ろうとしていた。今後は看護チームによるターミナルケア提供体制と医師とのケアの考え方の共有を検討していきたい。

